

## 今年もコロナに負けず頑張ります

この2年間、新型コロナウイルス感染症の影響で緊急事態宣言やまん延防止対策が実施され、三密を避けるために企業のテレワーク推進、学生のリモート授業、飲食店の酒類提供禁止と時短営業、不要不急の外出自粛、マスクの着用など、いろいろなところで不自由な生活を強いられてきました。ワクチン接種の効果もあって、昨年の10月中旬から12月後半までほぼ撲滅に近い数値で推移し、やっと元の生活に戻れる日が近いと思いきや、今度はオミクロン株という感染力の強いウイルスが凄まじい勢いで広まっています。



このような状況下においても、宇仁の朝市は昨年は無休で営業し、地産の新鮮な野菜を安価で、またお茶やお菓子・冬には焼き芋のサービスをするなど、地域の皆さんの憩いの場として活動しています。1月15日(土)と16日(日)の2日間は、稲木秀子さんによるぜんざいが振る舞われ、スタッフはもちろんお客さんも温かいごちそうに舌鼓をうちました。このような朝市に皆様お気軽にお立ち寄りください。  
(宇仁の朝市部会)

## 宇仁の朝市に参加して

宇仁の朝市さんには2021年1月から参加させていただいて1年になります。最初はイリコとカツオの佃煮、そして昆布の佃煮も追加しました。高橋醤油さんの醤油で煮詰めた天然の材料です。そして今は朝うどんの提供も始めています。朝市スタッフの皆さんに食べていただけるのがうれしいです。メニューは、きつねうどんや、朝市に並んでいる宇仁の野菜を加西の手作り味噌で煮込んだうどん、加西の猪肉トッピングなど、ここでしか食べるのでない特別なうどんを提供しています。旬の野菜や猪肉などを食べることができるので、栄養も豊富で味も美味しく、食べる価値あります。



そしてなにより朝市スタッフさんの優しい笑顔の元気が溢れる場所で食べるうどんは格別です。私はうどん屋を17年やっていますが、人生の楽しみの1つに食べるという事があると思っています。そして食べることの最高の幸せと価値は、地元の土で育ったものを食することだと思えます。旅行した時も、その土地で育ったものを食べ、その土地の人と語り合うことが楽しい思い出として残ります。そして育てた人と話せる、育てた人から買えること、この体験は感動を呼ぶものだと思います。それら全てがこの宇仁の朝市にあります。

これからもたくさんの方が関わり、来てくださり、盛り上がることを一緒に出来たらうれしいです。これからもよろしくお祈りします。そしていつも楽しい場をありがとうございます。  
(がいな製麺所 水谷克也)

## 27年前を振り返って

平成7年1月17日(火)の早朝、いつも通り起きようとしていたところ、ゴーと不気味な音がして間もなく、ドスンと激しい揺れを感じました。余震を気にしながら出勤のための準備を済ませ、車でJR宝殿駅に行きました。改札口にはいつもと違い大勢の人がいて、駅員さんに聞くと電車が動いてなくて運転再開の見込みは分からないとのこと。

詳しい情報もないため、駐車している車に戻り、ラジオをつけたところ、尼崎の方で電車が脱線し、線路にも異常が認められるとのこと、この日は出勤を断念。翌日は車で加古川の2人を拾って出勤を試みましたが、芦有道路は通行止め、国道も通行止めで、この日も出勤を断念。

3日目は社町駅の始発に乗り、谷川、福知山、京都、甲子園口を経由して勤務地の芦屋に着いたのは夕方。その日は泊り、その後は社町駅から谷川駅へ行き福知山線に乗り換えて尼崎経由で通ったり、JR神戸線、阪急、阪神も利用しました。

そして、JRが1月31日に全線開通した時はとてもうれしかったことを覚えています。この地震は27年前の1月17日の午前5時46分に発生したマグニチュード7.3の「阪神・淡路大震災」で、阪神高速神戸線の橋脚もろとも横倒しの場面を見た時は声が出ませんでした。

犠牲になられた方は6,434人。崩れた家の下敷きになり亡くなられた方が多かったようです。  
(繁田進作)



## 宇仁小学校に赴任して ～地域に根ざした学校づくり～

かわいい吹き抜けのエントランスホールを備えた、近代的な校舎。鳥居のあるこんもりとした鏡山と、歴史ある八王子神社が隣接している。そんな佇まいが、宇仁小学校を訪れた人に、新しさの中にも何とも言えない懐かしさを感じさせてくれます。

子どもたちは、明るく伸びやかで、大きな声で挨拶してくれます。さすが「あいさつ日本一」の学校です。授業の様子からは、どんなことにも一生懸命さを感じます。PTAやワッショイスクール協力員など、地元の方々のお話を聞くと、子どもたちとこの学校を本当に大切にされている気持ちが伝わってきます。このような宇仁小学校に、校長として勤めさせていただくことに、私自身、大変感謝しております。

歴代の先輩校長先生方から当時のことをお伺いすると、どの方も、子どもたちの素直さと地域の温かさを話されます。そして、各々が工夫を凝らし、思いをもって教育に取り組まれていたことを感じました。就任当初、私は「新任校長として何ができるのだろう」と不安を感じた時もありましたが、地域の方々と交流する中で解消してまいりました。

ICT 機器の発展に伴う世界のグローバル化が急進する中、国際理解の大切さが重要視されています。子どもたちの地元に関する理解を深め、その一員であることへの誇りや自信、地域へ愛情を育ませることが、他国の人々と協調しながらも主体的、創造的に生きるアイデンティティを育む上で大切だと言われます。この意味で、宇仁小学校のように、子どもたちが地域の中で学べることは貴重です。

今、GIGA スクール構想のもと、子どもたちに一人一台のタブレット端末が配置され、授業も大きく変化しています。今年度は STEAM 教育の一環として、SNS を使った海外との文化交流も計画しています。地域の少人数学校だからこそできる、都会の学校にも引けを取らない教育活動を、地域の方々と共に行っていきたいと考えています。地域に根ざした学校づくりを、全教職員力を合わせて取り組んでまいりますので、ご支援よろしくお願いたします。

(宇仁小学校長 菅野裕之)



## 宇仁郷のあゆみ 第一章 宇仁郷の黎明期⑥

### ⑥田谷パイロット事業



既存農家の経営規模拡大を図るため「水稻＋果樹等」の営農を目指して、くり、ブドウの栽培が計画されました。事業は農林水産省が「国営加古川西部土地改良事業」として取り組み、灌漑用水は靴屋ダムからの供給を計画、事業規模は地区面積 24.9ha、造成面積 17.7ha、栽培面積 16.4ha、農家戸数約 50 戸、工期昭和 46 年 4 月～昭和 51 年、総事業費 1 億 8 千 5 万 8 千円(受益者負担金含む)で完成を見ました。



現在クリ栽培は減少していますが、ブドウは田谷パイロットの特産物として主に京阪神等の都会に出荷されています。

現在クリ栽培は減少していますが、ブドウは田谷パイロットの特産物として主に京阪神等の都会に出荷されています。

## 宇仁郷歴史資料館より

歴史資料館の看板を宇仁小学校 6 年生が 2 種類作ってくれました。

ひとつは、運動場の道路側のフェンスに、もうひとつは歴史資料館の玄関わきの掲示板の下に取り付けています。

歴史資料館は体育館の北側に建っており、体育館の前まで上がってきても建物に看板が無いので初めての来館者には分かりづらかったのが解消されました。

6 年生のみなさん、  
ありがとう！

